

二葉

平成3年5月1日発行

諏訪二葉高等学校同窓会

東京支部編集委員会

東京支部だより

題字 今井綾子(高女28回)

東京支部のよりよい発展を願って

支部長 清水 保子(高女38回)

で、平成元年から、終身会費の徴集を始め、会員の協力で沢山の会費が集まり、本部の運営は勿論、平成二年には、各支部に還元金を頂く程になりました。東京支部も活動資金の一部に充当することができました。又昨年、前青木支部長のお骨折りで、支部の活動状況、沿革史、会報「東京支部のあゆみ」を、初めて発行しました。会報を通して、会員の交流を深めることができ、今後の支部発展の大きな礎となりました。同窓生の中には、まだ支部の存在を知らない方も多いと聞いておりま

心配して、本校の「ふたば」も今年から隔年発行となったのを機に、昨年同様「東京支部だより」を、みなさまのお手許にお届けすることにしました。恩師の消息、先輩後輩の活躍ぶり、学年だより等、盛り沢山の内容です。支部を知らない方、総会に欠席した方にもお配りして、支部活動を、尚一層ご理解頂き、新会員の誘いに役立てて頂きたいと思

います。沢山の寄稿を手にして感激しました。大都會の中で、真剣に取り組む、個々に活躍している同窓生の素晴らしい姿に、あらためて感動し、限られた行教の中で心情が良く表現されているのを感じました。作成に当り、諸先生始め、会員のみなさま、ご協力ありがとうございました。



右 青木前支部長
左 清水現支部長

清水支部長から、本年も発行と伺い驚きましたが、思いを翻せば維持費の還元、総会に出席出来なかつた方々にも、広く御覧いただいた、支部活動への理解、参加を願うものです。又その費用も支部費アップの御承認を得たからこそ発行出来るわけで、皆様と喜びを分かち合いたいと存じます。

もう一つ、藤原正彦先生の含蓄ある素晴らしい御講演が掲載され、教育途上にある子弟をお持ちの方々にも読んで頂けることを嬉しく

す。本校の「ふたば」も今年から隔年発行となったのを機に、昨年同様「東京支部だより」を、みなさまのお手許にお届けすることにしました。恩師の消息、先輩後輩の活躍ぶり、学年だより等、盛り沢山の内容です。支部を知らない方、総会に欠席した方にもお配りして、支部活動を、尚一層ご理解頂き、新会員の誘いに役立てて頂きたいと思

います。沢山の寄稿を手にして感激しました。大都會の中で、真剣に取り組む、個々に活躍している同窓生の素晴らしい姿に、あらためて感動し、限られた行教の中で心情が良く表現されているのを感じました。作成に当り、諸先生始め、会員のみなさま、ご協力ありがとうございました。

清水支部長から、本年も発行と伺い驚きましたが、思いを翻せば維持費の還元、総会に出席出来なかつた方々にも、広く御覧いただいた、支部活動への理解、参加を願うものです。又その費用も支部費アップの御承認を得たからこそ発行出来るわけで、皆様と喜びを分かち合いたいと存じます。

「東京支部だより」に寄せて

前支部長 青木 武子(高女36回)

東京支部の皆様、ご機嫌いかがですか。筆を執ればお懐しさが胸に溢れて参ります。昨年、昭和二五年以来の沿革も含め、東京支部として初めて、会報なるものを発行致しました。支部の皆様のご協力と役員一同の熱意で出来上ったものでした。その折、再び会報の紙上で皆様とお話させて頂くとは、予想だにしておりませんでした。

演題の「論理と情緒」その情緒を大切にしなければ平和は無いと結ばれました。凶らずも二ヶ月後、世界中を揺がした湾岸戦争が起き、幸い終結となりました。私は、丁度その時ニューヨークにおりましたが、喜びに湧く街の様子と戦災の難民の傷々しい映像、対照的でした。平和で、支部の益々の御発展を祈ります。

平成二年度総会予定

日時 平成三年六月二九日出
午前十時〜三時
会場 日本青年館4F
東洋軒

〇三(三四七五)二五五二

議事・講演会
講演会 講師 巽 豊彦
(英文学者)

昼食パーティー
会費 四、〇〇〇円

「東京支部だより」によせて

同窓会会長 細田 照代(高女35回)



みなさまお元気ですか。昨春は総会にお招きを頂き有難うございました。母校で青春を共にされた二葉の皆様が東京に根を下ろし美事な巨木となって活躍されているお姿を拝見しまして、改めて母校の伝統の重さとそれに寄せる皆様の熱い思いが東京支部の発展を促し、立派な会誌の生まれる力となったものと感銘を覚えた次第です。今年、諏訪湖は全面結氷し数年振りに御神渡りがありました。公魚釣りも見え、昔、下駄スケートに着物袴姿で滑った時代が懐しく思われます。パイプリングや国際スケート場がスケーターで賑わいスキー場は活気に満ちています。立春と云うのに盆地は凜然とした寒気に覆われています。季節毎

に趣をそえながら母校を守っている行き届いた庭木、クリム色の本館、白壁の天井、磨き込まれた床、同窓生の心を支える故郷の母校は美しく健在です。先日役員会が終ったこと、なお雪は降り続き薄暗くなった庭で車の屋根の雪を払い道をあけてくれている男生徒、その肩の雪をはらってやっている女生徒の姿は、ごく自然で共学の爽やかで暖い光景に接しました。生徒会に学校祭、クラブに、あまたの問題ものり越えながら新しい時代に向って巾広く力強く伸びてゆくものと期待されます。

八十余年みなさまの力で培われて来た伝統の上に、時代の息吹きを受止めて、遠く近くの会員が、ふる里母校に寄せられる心情を大切にしながら、思いをよせ合える会に育って行くことを願っております。昨年について第二号ご発行の運びとなられましたことは役員、みなさま方のお骨折りによるものと敬意を表し、ご発展をお祈りいたします。

母校近況

学校長 小林 仁

二月になって、一だんと寒さが厳しくなりました。天気予報でも、軽井沢に次いで諏訪が気温の低い日が多く、標高が影響しているようです。諏訪湖の御神渡りも見られ、



二葉祭 躍動する若い力

ワカサギの穴釣りもやれました。凍った湖面を吹き抜けてくる寒気は皮ふを刺し、元気になる生徒の肌は上気して赤味をおびます。私の住んでいる松本は、北アルプスおろしの冷めた所ですが、寒さに包まれる感じで諏訪より柔かです。平素、東京支部には、格別お世話になって居り厚く御礼

申しあげます。毎年ご招待いただく支部総会が、本会をしのぐ盛況さであって、出席の皆様が、卒業年度毎に時代を反映した貫録を持ち、意欲的なのが印象深く思い出されま。何かことある時に、たよりになる頼もしい支部です。前任の青木さんから始まった支部だよりを、今年もつづけると聞いて、さもありなんと

母校はお陰さまで共学四年目を迎えました。義務教育から、全く平等に育てられた世代なので不自然さはありません。ただ女性の立場が急激に有利になったため、二対一の男女の比率では圧倒されてしまう男子も出てきそうで、はらはらして居ります。共学になつて理系の進学者が増加し、学習面で活気が出てまいりました。男女に関係なく九割の生徒が、上級学校へ進学できる良き時代ですが、生徒たちは左程に思わないようです。どうやって、「ありがたさ」を思わせるか難しい課題です。

本部理事会報告

- ・終身会費納入状況 1月30日現在 10,630名
 - ・43回生卒業記念品 テレフォンカード
 - ・3年度新入生入学記念品 二葉の校章
 - ・新入学者数 363名(内男子126名)
 - ・故竹松さえかさんの遺稿集出版
- 平成元年10月1日体操競技中不慮の事故で亡くなった生徒の遺稿集を同総会として後援

東京支部維持費振込のお願い

年額 1,000円

口座番号 東京5-2043
 名称 諏訪二葉高校同窓会東京支部

- ・郵便振替口座を作りました。通常は学年幹事がまとめて集めますが個人で納入する方ご利用下さい。
 - ・振込人住所・氏名・高女又は高校の卒業回数を必ずご記入下さい。
 - ・振込控を領収書と致します。
 - ・払込手数料 支部負担(専用用紙)
- 問い合わせ先 会計 持丸きみ子 045(583)0643
 会計 宮坂 絹子 0466(26)8098

総 会 報 告

平成元年度
副支部長 横内 栄子
(高女38回)

昨夜の悪天候に心配されたが今日は晴れ渡り緑陰に卯の花の映ずる、平成二年六月十六日、日本青年館内東洋軒に於て、同窓会総会が開催されました。

来賓、客員同窓生の皆様で総数二七七名(高校の方が増え嬉しい)会場は熱気に溢れ大盛況本日的人数が限界と嬉しい悲鳴清水副支部長の開会の辞、校歌斉唱で始まる。青木支部長挨拶。

部年会費千円として頂く事が認められた。支部は終身会費も多数御協力下さったので本部より年十五万円還元金頂ける事となり。会報の助けとなり嬉しかった。今日は楽しい意義ある一日を過ぎて欲しいと結ばれました。式次第に従い会計報告、新役員紹介、新支部長(平成二年より)清水保子様(高女三八回)が支部発展への意欲を示し頑張りますと挨拶され、本部細田会長、小林校長、共に東京支部の盛況と熱意を賞讃、本部の近況報告、二葉高校現在のあり方について説明。

感動で盛大な拍手でした。紅茶が運ばれ、余興有志コーラス全員(高校三回)石崎靖子様(高校一五回)共演にうっとり、信濃の国希望も時間なく残念でした。毎年素適な会場を提供頂く金子頼子様(高女一七回)北沢美術館の本、招待券を頂いた北沢英子様(高女二七回)どうもありがとうございます。青木支部長任期満了に伴い新支部長より花束、高女三六回よりバラのブーケが贈呈されて、なごやかに閉会の辞で名残り惜しみつつ散会となりました。

切後出席希望者があったが会場満杯でお断りした程総会への皆様の熱意の程を称え、支部として初めて発行した「二葉東京支部のあゆみ」について触れ、本部から五万円、支部同窓生の寄付御援助、内容の濃い御寄稿、さすが二葉と感激、皆様と共に喜びたい。支部維持費は、昨年総会で本部終身会費として三千円収められた後、平成二年度より支



有志コーラス「川の流れるように」

諏訪二葉高校同窓会東京支部平成元年度決算報告書

(平成元. 5.1 ~ 2.4.30)

収 入 の 部			支 出 の 部			
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考	
1 前年度繰越金	1,013,502		1 総会関係	東洋軒食事代	1,000,400	パーティー・飲食物他, 245名
2 元年度維持費納入額	1,173,000	1,000×1,166,500×14		東洋軒会場費	181,772	席料, 奉仕料, その他
3 元年度総会会費	980,000	4,000×245		講師謝礼	160,000	高原須美子先生(車代共)
4 総会関係雑収入	60,000	祝儀		雑費	233,953	通信費, 決算報告書他
5 会報関係広告料	160,000	15名	2 本部納入維持費	337,710	300×1,125名(送料共)	
6 会報関係雑収入	53,000	本部他	3 会報関係	印刷費	205,897	2,000部
7 名簿売上	8,400	外に名簿基金として定期預金656,000円		通信費	108,685	会報送料(封筒・切手)
8 還元金	150,000	本部より		雑費	47,577	会場費, 交通費
9 預金利子	37,127		4 弔慰金	27,234	8名(送料含む)	
10 雑収入	2,000		5 名簿基金	30,000		
			6 支部長及役員通信費	24,000	支部長他7名	
			7 支部長及役員交通費	21,500	"	
			8 役員会及幹事会	223,977	会場費, 通信費他 役員会7回, 幹事会3回	
			9 次年度繰越金	1,034,324		
合 計	3,637,029		合 計	3,637,029		

講演会

論理と情緒

お茶の水女子大理学部教授 藤原正彦先生



ただ今ご紹介にあずかりました藤原です。

二葉は母も出ましたしおばあちゃんも二回生です。さんざおばあちゃんと母に威張られていて、世界で一番いい学校のように言っています。

二葉の卒業生は私のおばさんとか従姉妹とか多くて、話す機会もよくあり、「二葉です、すね、すごかったんですね」と四〇歳位の人に聞くと、いえもう落ちぶれた時だからと言いい、五七、八歳くらいの人に聞くと、落ちぶれかけた頃だったからと言います。母は七二歳になるのですが、謙遜の言葉もないので最盛期だったかなと。私の教え子が二葉で教えているので聞くと、今の子は可愛いといいます。

父は二葉の上の角間新田の出身で、二葉の生徒を眺めながら、諷通に通いました。

今日は論理と情緒について話すのですが、数学者が発見などする時には頭の中で論理

的思考で主にする訳ですが、それだけではうまくいかなくて、情緒的な事が入ってくるという話をしたいのです。

数学者はインスピレーションで解ける訳ですが、どういう時にインスピレーションが湧くかと言うと大抵の場合、机で勉強している時に天啓が閃く訳ではないのです。

例えば有名なドイツの数学者ガウスは、寝起きざまに正一七角形の書き方をコンパスと定規で発見しました。あるいはポアンカレという数学者は、ずっとある数学の問題を考えていたんですね。友達と

談笑しながら道を横切って馬車の踏み台に足を乗せた瞬間に全部とけたそうです。そういう話を外国だけでなく、日本でも奈良女子大の岡潔というエライ先生がいくら考えても解けないので、涼しい札幌に行きました。夏休み中解けなくて、帰りの夜行列車に乗った瞬間全部解けてしまったのです。

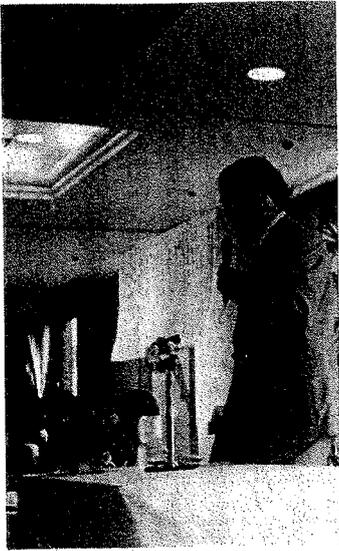
そんなエライ人ばかりではなく、私が博士論文を書いたのは母の田舎の茅野市の湖東という所なんです。オバアチヤンの家に夏避暑に行ったのです。八畳間の隅に積んであるフトンに寄り掛かって、一月も三月も考えて解けないのでふてくされて居眠りをしていたら、午後の四時くらいに突然解けた。これで一年以内にアメリカあたりから招待が来るだろう、助教授にも理学

脳みその働きがどうなっているかと言う事です。それを図式化してみると、一番最初は静止状態（脳みそが働いていない・本を読んだり知識を入れる）、それから何かをしてやるという意識的活動（相対的な集中力が必要）を始める。そして極度の集中を一ヶ月位続けると思議な事に無意識的活動が始まる。夜寝ている間も考えている。考えられないというの素人で、命懸けで考えていると、眠っている間に色々なアイデアが湧く。うまくいった時天啓（インスピレーション）が下る。それが常に正しいとは限らないので、それを意識的活動で検証するわけです。そういう順序になっていて、その中で一番面白いのは無意識的活動ですね。

寝ている時とか散歩している時、今までどうしても解けなかった問題がとけちゃう。どうしてか？ 私など数学の問題を一月も二月も考える時枕の側に紙とボールペンを置く。何かインスピレーションがどーんと来ると興奮状態になって眠れなくなる。夜中はねぼけていて検証も出来ず正しいかどうか判定出来ないの

で書き止めておいて眠る。次の日の朝正しいかどうかチェックする。私の場合十のうち九個までが真っ赤なウソですが、十個に一個くらいは正しい。また百個に一個位スペクタキュラーなものがあります。ところが何年前から文学的仕事を始めて、自分の気持ちを上手に表現出来ないことが時々ある。やはり夜中いきなりぱっと湧いてくる事がある訳ですね。次の朝読んでみると数学とは逆に八割位がすばらしい表現です。数学の時に逆なのは何の差なのか。情緒に関係するのではないか。それが数学と少し割合が違うのではないかと思う訳です。

無意識活動とはどういう事なのかと考えてみます。脳みその中に、ある知識や情報が記憶されているわけです。それが普段は止まっていて活性化していない。何かあるとそれが極度に集中しそれが脳みその中の回路を原子となつて飛び回る。極度の集中を一月位続けると眠っている間でもそれが飛びかかっていてそれで原子と原子（知識と知識）が結びついて一つのアイデアになって脳みその中のアナテナのようなものがそれを感



博士にもなれるだろうと計算したら、一年以内に全部実現した。それ位確信があった。 どうしてそんなに何も考えられない時に突然解けるか、その

知するのではないか。次から次へとつまらないアイデア、良いアイデア、悪いアイデアが湧くわけですが、それを識別するのは情緒的なものが関係するのではないかと、そのように思う訳です。

新しいアイデアを出す事は大した事ではない。それを選択するのに天分を必要とするのです。その選択基準ですが、そこに美しさとか調和感とか審美眼という情緒が必要になるのです。

それでは独創的な数学者と云うのはどういう人間なのかと言いますと、知識と情報が全然無いとダメですね。かなりの知識と情報というのは必ずです。豊富な知識を求めるには何が重要かというところ、知的好奇心なんです。

その他に努力が必要で、世界の驚異的天才をたくさん知っていますが、大天才の特徴は大努力家です。

二番目に必要なのは極度の集中力で、脳の回路の中を勢いよく飛び出さないと寝ている間も考えられない。そのために何が重要かというところ、野心（身分不相応の考え）がないとダメです。

その他に極度の集中力を可

能にするためには、自信が必要で、自信がこうじて傲慢であればもったいいですね。なぜなら自信と傲慢さが無いと挫折した時に弱いのです。又樂觀的である事が必要で、その理由は二つあって、一つは挫折を繰り返すたびに樂觀的でないで萎んでしまう。もう一つは、樂觀的でないで頭が働かない。数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞をもらったコーエンというスタンフォード大学の教授がいま

すが、その人は問題を見た瞬間、（あーこりゃ簡単だ！）と言うそうです。だけど解けないらしいですね。でもこりゃ簡単だという事で頭を働かすのです。

三番目に重要なのは持続力です。体力的な意味もあるし精神的な意味もあります。一週間や二週間考えて解けるような問題はころがって居ないので、それに執拗（しつこい）、これが重要です。あるいは物に拘わる、ネチネチと拘るのが学者向きです。

四番目に必要なのが情緒の力ですが、これは後まわしにして五番目に重要なのが論理的思考です。これが頭がよいとかいう事で、自分のアイ

アが正しいかどうか検証できないと困る訳です。数学は頭だけで決まるだろうと一般の人は誤解しているところ、数学者として成功するのは五割が頭で五割が性格です。ある先輩は感動力が凄く強い人で、大学四年の時数学の定理を読んであまりの美しさに感動して昨夜は眠れなかつたと言いました。涙まで流したというので私はそれを聞いて嫌なヤツだと思いましたが、自分自身は定理をみて美しいなとは思いますが眠れない程ではなく、自分は感動力が薄いかと劣等感を覚えたことがあります。

先程の岡先生にある人が情緒が重要とはどんな事かと問うと、「野に咲くすみれを美しいと思う心だ」と言ったらいいですね。そういう心が数学をやるには必要であり、自分の数学は情緒を数学の形で表現しているだけだとも言ったそうです。

この情緒とは喜怒哀楽の原來的情緒ではなく高次の情緒が重要なのです。ではどうして必要なのか。一般的に人間の思考力はどうやって決まるか話しますと、A（出発点）ならB、Bなら

C……Z（結論）と論理的に考えていく。Aの出発点は仮説であってその仮説Aをどうやって選ぶかそれを情緒で選ぶ。B、C、D……は論理的帰結です。この情緒はどうして出来るかというところ、どんな悲しい別れをしたか、どうい親に育てられたか、どんな本を読んだか、どうな恋愛をしたか、それら全てをふくめて情緒となつていくものが出てくる。この情緒は選んでいくのではなく、頭の良い人は危険です。Aの出発点を間違えて選んでしまうとその間の論理が正しくても結論は間違っているからです。情緒をどうやって培うか。

初恋、片思い、どろんこ遊びなどすべき時にしたい訳です。そういうのがないと本當の情緒は育たない。論理と情緒の関係はどうなっているか。舟を動かすのに船頭の腕力（論理的思考力）と方向感覚（情緒）が必要でいくらか腕力が強くても方向感覚がなくて行くと先が解らない。最近の子供達の情緒力が衰えているのはどうしてか？色々理由がありますが貧困がなくなつたこと、国語教育の軽視ではないか。

なぜ情緒を強調しなければならぬかと言うと、日本では西歐を凌駕する新しい文化・学問をしようとする日本人的情緒を前面に出さないと中々勝てないじゃないか、そのようにおもう訳です。

人類の目的は何かというところ、学者は真理の探求と言うが、それは重要だが最重要ではない。再び戦争を起こさないことが最重要である。論理的思考（理性）では不可能であり昔から戦争が終わるたびに、十年後には反省しているのに又在の人間が過去の人間と比べて理性で優れているというところ、それはなく知識の蓄積があるだけ、情緒力では優れていない。いまは核兵器があるから戦争が起りにくくなっているだけ、理性では戦争をやめることは出来ないことは歴史的にみて証明される事実であり、それを止めるには情緒の力しかない。例えば父は諏訪に深い郷愁をもち、彼の文学を読むと山や谷、雲や光や雑草、空気までも愛していた。そういうものに涙を流せる人が核戦争のボタンを押せるか……。深い情緒のある人は国を愛することにもなるのです。

なぜ情緒を強調しなければならぬかと言うと、日本では西歐を凌駕する新しい文化・学問をしようとする日本人的情緒を前面に出さないと中々勝てないじゃないか、そのようにおもう訳です。

人類の目的は何かというところ、学者は真理の探求と言うが、それは重要だが最重要ではない。再び戦争を起こさないことが最重要である。論理的思考（理性）では不可能であり昔から戦争が終わるたびに、十年後には反省しているのに又在の人間が過去の人間と比べて理性で優れているというところ、それはなく知識の蓄積があるだけ、情緒力では優れていない。いまは核兵器があるから戦争が起りにくくなっているだけ、理性では戦争をやめることは出来ないことは歴史的にみて証明される事実であり、それを止めるには情緒の力しかない。例えば父は諏訪に深い郷愁をもち、彼の文学を読むと山や谷、雲や光や雑草、空気までも愛していた。そういうものに涙を流せる人が核戦争のボタンを押せるか……。深い情緒のある人は国を愛することにもなるのです。

人類の目的は何かというところ、学者は真理の探求と言うが、それは重要だが最重要ではない。再び戦争を起こさないことが最重要である。論理的思考（理性）では不可能であり昔から戦争が終わるたびに、十年後には反省しているのに又在の人間が過去の人間と比べて理性で優れているというところ、それはなく知識の蓄積があるだけ、情緒力では優れていない。いまは核兵器があるから戦争が起りにくくなっているだけ、理性では戦争をやめることは出来ないことは歴史的にみて証明される事実であり、それを止めるには情緒の力しかない。例えば父は諏訪に深い郷愁をもち、彼の文学を読むと山や谷、雲や光や雑草、空気までも愛していた。そういうものに涙を流せる人が核戦争のボタンを押せるか……。深い情緒のある人は国を愛することにもなるのです。

人類の目的は何かというところ、学者は真理の探求と言うが、それは重要だが最重要ではない。再び戦争を起こさないことが最重要である。論理的思考（理性）では不可能であり昔から戦争が終わるたびに、十年後には反省しているのに又在の人間が過去の人間と比べて理性で優れているというところ、それはなく知識の蓄積があるだけ、情緒力では優れていない。いまは核兵器があるから戦争が起りにくくなっているだけ、理性では戦争をやめることは出来ないことは歴史的にみて証明される事実であり、それを止めるには情緒の力しかない。例えば父は諏訪に深い郷愁をもち、彼の文学を読むと山や谷、雲や光や雑草、空気までも愛していた。そういうものに涙を流せる人が核戦争のボタンを押せるか……。深い情緒のある人は国を愛することにもなるのです。



私は今

赤羽 幸雄

恩

清水東京支部長さんより会報に投稿してほしいとの連絡を頂きました。この折のお話しては

勤労働員
池上 正治

師

若い会員の方からのご指名があったとお聞きいたしました。私は今は他界された為田勝美先生のあと

だ

昭和三十七年四月より昭和六十二年三月までの間お世話になりました。その間の同窓生の方々からアカッパをどのように思い出して下さっているでしょうか、ましがってでも誠に立派な授業をしたと思いい出して下さる方は一人もいないと思っております。送別学芸会の際巖さん(立石巖先生)が歌って私が踊ったアカッパ勸太郎か、秋の体育祭で全校生徒での民謡のアカッパか、パドミントンのアカッパか、いづれにしてもご指名を頂き本当にうれしく思っております。

よ

今私は猫の額程の田畑を耕しながら、セイコーエプソン工化短大の講師、そして私の趣味の一つである溪流釣を楽しんでおります。又市体育課主催のレディースパドミントン教室アクティブというサークルでも若い人達とパドをやっています。誠に優秀な生徒と四季をとおして県下高校で最も環境のよい学校で教職の最後をすごさせて頂き、本当にうれしく誇りに思っております。とりとめもないことを書きました。東京支部の益々の発展と皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。



させた。時には係りの軍人と争いもして。この三十七回高女卒の少女達が還暦のクラス会を昭和六十三年十月に諏訪渋の湯で六十余名集り、共に困苦を経ているのちありてこそ思いに燃えあがるような一夕となった。次の日北沢美術館の蝶の温室で女学生のように蝶を追ふ姿に『大森先生真実の御言葉有難うございました』と胸をあつくした。

り

校長大森先生が一瞬沈黙されて『この戦争は負けるかもしれない』と八ツ岳大泉小泉諏訪湖は「ああふるさとよ」と涙がこぼれた。昭和五年から二十四年まで日本の大変動期を暮らしたきびしく美しい信州。相会い相別れた多勢の方々の御恩。年老いた今の私の心のささえと美しい思い出の諏訪を有難く思ふ。諏訪二葉高校の御栄え念じつつ。

ひとことの真実

竹村 静子(板東)

生きていく間に戦はないと願っていたのに、一層高度な兵器の戦場となった国々の人々の苦難が半世紀前の自分と重なる。昭和十六年末ハワイの勝利に日本が湧いていた頃私達女子職員の会合が終って



終戦直前の思出として最も感動的だったことは学徒動員でした。本校は軍需工業の現場となり授業の場を没収されました。三年生の学年主任としての任務はまず生徒の居住地を諏訪市の角間川を境にして南と北の二班に分け南は岡谷市今井新道の帝国ピストンリングで飛行機部品の研磨、南は岡谷市役所近くの兵器廠で通信機材の梱包の仕事をすることになりました。前者は寮に泊りこみ暖房設備もない所で寝食を共にしながら頑張

下寒風に吹きさらしながらよくやりました。当時四年制だった高女の授業を約三年だけしか受けられず、まことに気の毒のことをしました。『一億一心火の玉』を合言葉に報国の一念に燃えた彼女達は、反面この鍛錬のおかげでいくつうたかたかでも弱音をほかぬ不屈の根生を身につけたものだと私は確信しています。今日繁栄の日本の礎になっていないのでしょうか。又ピストンや兵器廠で身につけた技能は後日家庭を持たれた場合に役立つことうけあいと思

います。兵器廠出身を一例として挙げれば引越しの際本職を上廻る腕前を發揮されるで

活躍する先輩・後輩

演奏会の度ごとに

推薦者

(高校15回) 村瀬 茂子

ご紹介するにあたり、顧みまずと、靖子さんとの交友は小学生、中学生の頃、合唱部の先輩として出会う事から始まりました。楽しいけれど、



声楽家 竹村靖子(石崎)(高校15回)

鋭い感性を持った方という印象を受けました。中学、二葉時代には、野ばら会の同門ということもあり、文化祭、発表会などの伴奏をさせて戴き、楽しかった事が、今まで長くご交際いただいているきっかけです。その後、靖子さんは

芸大に進まれ、大学院をご卒業、第三十九回毎日コンクールに入選、新人演奏会でデビュー、二期会会員となられ、数々のオペラに出演されています。私の印象に残っている役だけでも「魔笛」の夜の女王、「フィガロの結婚」のズザンナ、「三文オペラ」のリースー、「安寿と厨子王」の厨子王、「オンデイーヌ」等々、数えきれません。またソリストとして第九、モーツァルトやフォーレのレクイエム等幅広く、私が感心します事は、演奏会の度ごとに、新しいものを感じさせる事です。昨年九月には、二回目のリサイタルを催され、今までにないスパインの歌曲を歌われ、大輪の花を咲かせる様に、多くの人々を感動させました。同じ世代で音楽と共に歩いた者として一層力付けられ、心にし

みるものでした。専門家の方々からも高い評価をうけられています。また、教育者として

学芸大、東京音大、二期会、青年座、俳優座で数多くの声楽家を育てられています。私も生徒にして戴いていますが、教わった通りに致しますと、不思議に上手に歌えるような気がします。

いつも暖かい目で見守っていられるご家族にも恵まれています。より一層のご活躍を楽しみにしています。

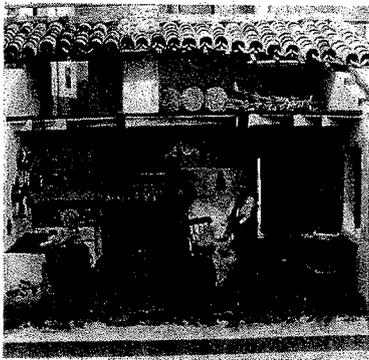
演奏会予定

- 七月七日 津田ホール
- 八月下旬の、秋 諏訪
- 五月中旬 CD発売

建築家

宮崎玲子(高校1回)

ミニチュアの世界の台所展



井上玲子さんのこと

推薦者

(高校3回) 手嶋 琴

第二次世界大戦末期、諏訪高等女学校の入学試験場で、おかつば頭同志顔を合わせて以来、玲子さんは、良きにつけ、あしきにつけ、自然態の女性であり続けたと、私は思っています。

特に絵画部で、宮芳平先生との出逢いというラッキーな時期を持ちました。自然と人間、空と地みつめる思考態度は、今日の玲子さんの製作の重要なファクターになっているのではないのでしょうか。作品は、みがきあげたアルミの地膚が空を切る、独特な世界を創りあげていますが、



彫刻家 井上玲子(高校3回)

題名 カゲボウ
製作年月 1988年
高さ450cm 幅190cm 奥行180cm
材質 アルミニウム
場所 神奈川県立近代美術館新館

「製作中は、子供を育てるのと同じ心で取組んでいるのよ」と語った彼女の言葉通り、最愛の理解者である御主人様との歴史の上に築かれた子宝が玲子さんの作品群でもあるのでしょうか。

自由美術彫刻部の会員として、多くの男性会員のマドンナであり、禅の研究にはげむ思想家であると共に、独創的なお料理には定評があり、展示会の楽屋には、彼女持参のお弁当が彩を添えているのも、人気の一因かもしれません。

玉子のからを破った不死鳥の様に、玲子さんの作品が、女性の時代のさきがけとして世界に翔く時を、皆様と共に見守りたいと思っています。

敬子さんと彫刻の心

推薦者

(高校7回) 藤原 博子

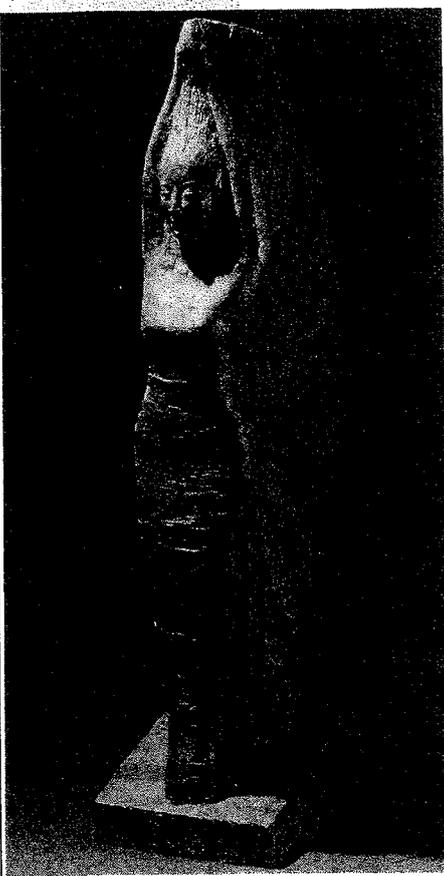
高校一年で同じクラス、大
 学も一緒だったにもかかわら
 ず彼女が彫刻家としての道を
 選んだのを知ったのは、昭和
 四五年、親子像で日府展奨励
 賞を受賞した時だった。その
 後の彼女の創作意欲はすこく、
 三人のご子息を育てながらの
 多忙を極める日々の中で文字
 通り寝食抜き努力が払われ
 続け、テーマも、親子、パン
 グラデシユの母子、炎、そし
 て羽化と変っていったが、そ
 の底に一貫して流れ続けている

(彫刻家 有賀敬子(高校7回))

辰子飛翔の像(一九九〇年作)

夢科高原美術館、矢崎虎夫記念館(平成三年七月開館)

夢科高原ピラタスの丘(横岳ロープウェイ発着駅近く)



たものは常に「祈りの心」だ
 った。昭和五十年、亜細亜現
 代美術展文部大臣奨励賞、五
 四年に記念賞、六十年には亜
 細亜大賞を受賞、その間五二
 年と六十年に個展を、五七年
 六一年には虎夫氏との親子展
 を開催、毎年の陶彫展への出
 品とその活躍は目ざましい。
 現在取り組んでいる「羽化」
 で平成元年安田火災美術財団
 奨励賞受賞。台湾の神秘的な
 伝説をふまえて制作した「羽
 化、辰子飛翔」は昨年の安田
 火災美術財団奨励賞展新作秀
 作賞に輝やき、さらに東海村
 ふれあいロード彫刻コンクー
 ル原電賞、国際公募美展中華

石田正子様のこと

推薦者

(高女24回) 倉持 ひろ

第十一回の支部長をされた
 石田正子様とは同級である。
 杉並の小学校で定年まで先

生をなさり、定年
 後も六二才から六
 九才まで、深川区

その他で産休補助
 教育にかかわった
 石田様は欠席なし

という父母会の人
 気に支えられ、尽
 すことの愉しさを
 知ったという。書

かせて頂きたいの
 はその前半生でな
 く「老後」と云わ
 れる現在の若々し
 い姿である。娘さ
 んとお孫さん三人

の生活の中で石田様は続けて
 いた謡曲、短歌、墨絵、習字
 などの外、地区の自主研究の
 古典の会で万葉、平家、太平
 記などや雨月などの江戸文学
 の会、歎異抄の勉強会など。
 又、観音めぐりは四国も秩父
 も終わられて今、江戸観音めぐ
 りを始めておられ、一日に三
 寺位はお詣りなさる由、御近
 所に時々配る位の野菜作り、
 前歴をかわれ時に世話役も背
 負われ張り切っておられるの
 を聞くと望ましい老後の一つ
 の姿と思う。二年前、石田様
 と十一日間の中国の長江下り
 の入る旅に参加した。

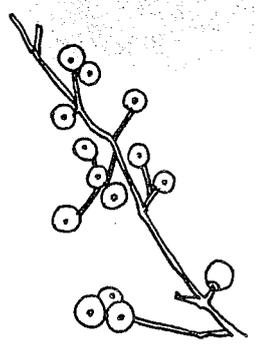
滴江下りも長江下りも、船
 に陸に写っている写真はお互
 いに悩みなど何もない顔で屈
 託なく笑っている。
 職業人としてのキャリアを
 持つておられるべきよし
 て楽しい方である。

ふりかえって
 そして、これから…

(高校23回) 常松 竜子

先日、日本テレビで放映さ
 れた「プサ・マカシ」を御覧
 になった方も多いことと思
 います。私も同じ志をもった者
 として感動的に見せて頂きま
 した。在学中、私はJRC

(青少年赤十字)に加入し、
 そこでネパールで医療奉仕を
 している岩村先生を知り、大
 きな感銘を受けました。古切
 手運動をしてBCGをネパー
 ルに送る活動をしながら、私
 もいつかはネパールに行きた
 いと強く思うようになり、看
 護学校に進学しました。看護
 婦となり、無医村への医療奉
 仕や救急活動をして三年ほ
 ど過ぎた頃、岩村先生にお会
 いする機会が与えられ、色々
 アドバイスを受け、私は助産
 婦学校へ進学したのです。し
 かし、その頃、主人と出会い、
 家庭の事情もあって国外行き
 は断念せざるをえませんでした
 が、今もその志は薄れてお
 りません。現在は、三人の子
 供を育てながら助産婦として
 働いております。私は、看護
 学生の時、信仰の道へ導かれ
 「他の為に生きよ」と教えら
 れました。今もその言葉を胸
 に秘めながら、時が与えられ
 ることを待ち望んでおります。





追慕 文明・タイ・芳平

歌人 小島 初子(高女27回)

昨年暮、百歳の現役歌人土屋文明先生が逝かれた。――半世紀前のある年ある日、東京女子大学(当時の諏訪高女国語科大村はま先生の母校)の大槻俊先生に伴われて、東京青山のアララギ発行所に歌稿を持参し、文明先生に見て

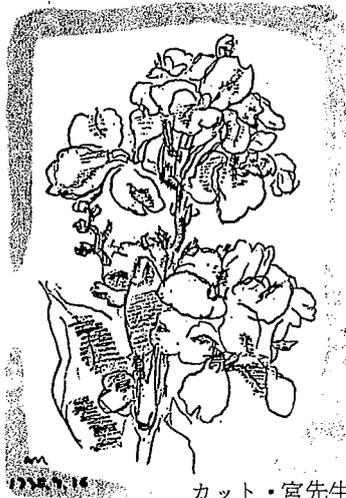
いただいた。若い男性が怒鳴られたあとだったので、私は緊張して先生を仰ぎ見た。先生は六首の歌に○印を付け、「初めてだから、こんなものかな」と微笑された。血色のよい頬と和んだ眼があったたかかった。初めての人、大概は二、三首どまりだそう。やがて始まった歌会では、厳しい評言が飛び交い、私の作も散々だったが、文明

先生は、「君たちにこれほど素直に表現できるかね」とかばってくださった。直接にお会いできたのはこの時だけだが、以後戦争激化のため帰郷するまで数年間御指導いただいた。

鳥木赤彦先生の世話で信州に來た文明先生は、大正七年から十一年まで諏訪高女に教頭・校長として在任された。いわゆる大正デモクラシーの流れの中で、三十歳前後の歌人教師は、柔軟にかつ骨太に信州教育に対応しようとした。昭和初年の随想「往還雑記」に印象深い提言がある。――「或は学校教育といふものは従来の社会的有用なる機関たる位置を捨てて無用の用に進むところに僅かにその一生面が存するのではあるまいか」そしてまた「教育は最初から無理なものである。不自然なものである。不自由なものである。少くともさういふ方面のあるべきものである」――

与)を重ね合わせると、七十年前の諏訪高女の雰囲気が浮かんできく。私の母小池若藻は、大正初年、中洲村の小学校に勤めて伊藤千代子・平林タイたちを教えた。二人のことは後まで気にかけており、タイ事件のことも母から聞いた。戦後、母とともに、乳癌の手術のあのタイさんを訪ねた。対面の瞬間、じっと見つめ合った

二人の姿は今も眼に残る。それから数年後タイさんは六十七歳で世を去ったが、文明先生への感謝のことばを遺している。文明先生の諏訪への関心の深さは、戦前の思想問題に巻き込まれた教え子たちへの憶いともつながる。昭和十年、○語らへば眼かがやく処女等に思ひいづ諏訪女学校にありし頃のこと ○まをとめたただ素直にて行



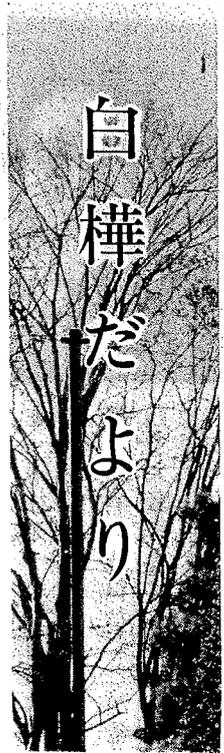
先生・宮カット

きにしを囚へられ獄に死にき五年がほどに ○こころざしつたふれし少女よ新しき光の中におきて思はむ ○高き世をただめず少女ここに見れば伊藤千代子がこそぞかなしき ○われ老いてさらばふ時に告げ来る諏訪の少女の清き一生を

○梶の木の丘の上なるわが四年幾百人か育ちゆきけむ 文明先生が松本高女に去った翌年、大正十二年四月に、図画の宮芳平先生が着任された。清水多嘉示さんの後任にと師の中村彝画伯が推薦してくれた。(多嘉示さんが渡仏できたのは、文明先生が上諏訪町の写真館主立木さんたちに頼み後援会をつくったから、という。)

つづけてできる方がいいでしよう」と配慮した。こうした寛やかさが、その頃の諏訪の学校にはあった。芳平先生が生涯をこの諏訪の地に託してもよいと感じたのは、この時であったかもしれない。森鷗外「天龍」の主人公M君のモデル宮芳平君は、かくて諏訪高女の教師となった。以来三十六年間、授業をつづけ、絵を描きつづけて倦まなかつた。この間の消息は、小宮山多賀弘先生の「鯨先生物語」に詳しい。――昭和二十

六年に來校された谷川徹三さんは、芳平先生の絵を見て、「芸術の解った人の絵だ。学校の先生らしくない絵だ。少し線が強かったら大したものだ。大変結構です」と述べ、清水多嘉示さんも「冷たい写真でなく、感動と詩情を豊かに盛った作風」と評した。『天龍の人』宮芳平先生は生涯の大半を諏訪で過ごし、昭和四十六年三月三十日七十八歳で逝かれた。 今秋十月十二日(土)から二十九日(火)まで、茅野市美術館で、宮芳平回顧展が開かれる。没後二十年である。(一九九一・三・一〇)



白樺だより

日本語への

チャレンジ

(高女38回) 金井 良子

『海外で外国人に日本語を教える体験ツアー(シドニー工科大学ランゲージセンターで十六日間)』という案内が突然に舞い込んできました。

何か新しいことにチャレンジしてみたいと思っていた矢先でしたし、仕事にも多少関連があるかもしれないと思い、昨年八月に参加しました。

日本語が話せれば、日本語は教えられるだろう、という安易な気持ちから、経験もないのに参加したのですが、これは大きな間違いでした。

生徒は社会人です。カードやシートを使ったり、実物を見せたり、一緒に行動したりして教えます。



なかなかなか楽しい雰囲気でした。けれども、

そう簡単には行きません。二分は(にぶん)ですが、四分は(よんぶん)です。ところが、四時は(よじ)で(よんじ)ではありません。小さな事ですが、こんな例に沢山ぶつかりました。

何の疑問もなく、当り前と思っていたことは困りました。きちんと説明できないだけの知識を持っていないと、使えるだけでは教えられません。今、日本語が乱れていると言われていますが、海外では日本語熱が盛んです。正しく学んで貰うためには、日本人が日本語を勉強する必要があらります。改めて、考えさせられた体験でした。

子どもたちの明日を保障するために

(高校35回) 新堀 千春

私は母親になってから、子どもを取り巻く環境に無関心ではいられなくなり、先日国連で採択された「子どもの権利条約」について思う事を述べさせていただきます。

子どもは歩けなくても話せなくても自己主張をしなくても私はここにいて、こういうふうに考えている、感じているという事を大事にしている存在で、私たちよりもずっと希望にあふれて生きています。

だからこそ社会は子どもの必要にあった病院、学校、レクリエーション施設等を用意する必要があります。そしてある子ども一人の問題も私たち全体の権利の問題だというふうに考えて、知恵や力を寄せ合い、皆で奮闘しようとするのが期待しているように思います。ところが今は、子どもを守る大人の生活が「過労死」するような状態です。

つまり、子どもを守るべき大人の生活が改善されていないという事の上に、子どもの権利保障の貧困化がもたらされているわけで、「子どもの権利を労働運動へ」具体化する必要もあるのではないかと感じます。私たちは、まず身近な自治体レベルでできる事を考え、やがて国政レベルに発展させ、すこやかな子どもの育つ住みよい国にする事が、子どもを持つ親の努めであると思っています。

作品

葉附蜜柑 (高女21回) 高木 登志

原爆忌しずかに老いて語る人

良寛を語る集ひや萩の寺

千枚漬奉書のごとく取りいだす

枯蓮の池のひそひそ話かな

懐炉背に海を見に来し日曜日

六月の雨

(高女29回) 窪嶋 光子

山国に生れし故に馴染めぬと思いついたる海あたたかし海渡る風あり吾の小心をいたぶるごとく過ぎゆきにけり朝霧のこまかき粒子目にみえて松の新芽にふれて流るる六月の雨の雫か紫陽花のはなむら重く彩うつりゆく残照は色鈍き雲を縁どりて没りゆくきわの朱の燃えゆく

思惟仏

(高女37回) 坂詰 國子

指細き弥勒思惟仏花曇り花の雨真夜かけて画く思惟仏厄除けの土器投げる谷若葉葉桜や覗く小町の化粧井戸地獄絵の閻魔の貌に紙魚のあと

竹林

(高女38回) 藤森 京子

新巻を吊したる日や独り住み雪割れの竹林青き力秘む田起しの土に泌みゆく小雨かな

折々に

(高校9回) 伊藤すみ江

ふるさとの家に目覚めてしばし聞く兄の代なる生活の音折々に桐の花の香渡り来る屋根の向うの風の道すぢ

幸せいっぱい の集い

(高女34回) 金子 町子

篠原、小口先生を新宿駅にお迎えし、三十四回生十七名は、昔のセーラー服おさげ髪の毛いにひたりつつ、楽しい集いを、十月二十五日(休)に新宿『大志満』で行いました。

篠原先生からは、論話のお話から深山に咲く百合のようについてまでも楚々とあれとお訓しを、小口先生からは毎年こうして行われる温かい心の通い合いは、諏訪高女の先輩後輩のゆえもあるが、ほんとうにありがとうとおことばを頂きました。

乾杯のあと加賀料理を賞味



しながら歓談が続きました。女学校時代の歌集「ふた葉」の復刻が伊藤さん、矢崎さんのご好意で配布され、感動も一入でした。山田さん、上原さんからは、来年六月の卒業五十周年記念諏訪大会のご案内もありました。

会員の皆様からは、最近の外国旅行のお話などの近況や、女学校時代の、植林や、蓼科山登山の修学旅行、運動会のダンス、全校行進等々楽しい話題はつきませんでした。

藤森(ゆ)さんからは例年通りすばらしい独唱(ブライムスの子守歌他)も聞かせて頂くことができました。最後には全員による大合唱で白き翼・花・四季の歌を若々しく歌い上げました。

一同、先生を新宿駅にお送りし心からご多幸を祈りました。

今、私が住んでいる所

(高校4回) 石川 靖子

JR平塚を過ぎて相模川の鉄橋に差し掛かると富士山が見える。冬の間は真白に化粧した姿を裾野まではっきり見せているが、三月に入ると春霞の中に頂だけぼんやり浮かんでしか見ることができない日が多いが、それも又美しい。

「世界の台所博物館」 展を見学して

(高女21回) 尾崎きよ子

二葉同窓生宮崎玲子さんのライフワーク「世界の台所博物館」展を銀座に見学に参りました。宮崎さんが長年実地調査してこられた世界各地の台所が懇切な説明と写真と模型で紹介されており、大変分り易く楽しく拝見致しました。

およそ北緯四十度の線を境として北では火を暖房や照明として利用する為、鍋を吊り易く楽しく拝見致しました。事など、風土や慣習の違いによって台所にも違いがあることは興味深いことでした。宮崎さん、ほんとうに有り難うございました。

身に近く子供在りし日よ葉の陰に枇杷まだ青き実をよせ合へる
うす闇に廻り舞台の変る時女一生の展開を待つ

育兒・育自に奮闘中

(高校32回) 阿保 真弓

二児の母親になりました。赤ちゃん大好きな長女ですが、次女誕生はやはり大きなショックのようでした。

「お母さん、お母さん」と入院中は泣いてしがみつくと真摯な姿に切なくなりました。「私だってお母さんの子供でしょ！抱っこしていいんだよ。」日々ちよっと待ってね、が多くなる中で甘えられずにいたのでしょうか。それからはおっぱいの時も紐でおぶってあげることにしました。

湘南の地二宮から東京まで所要時間一時間二十分、出掛ける時はバックに文庫本か雑誌を入れて列車に乗るのだが、この景色をみるまでは本を開かない。きれいに富士山が見える。今日は何か良いことが有りそうなる予感がする。

この地に移り住んで二十五年になる。当時七才であった長男が小児喘息がひどかった

為の転地であったが、この地が気に入って東京の家を売却し、こちらに家を建てた。

箱根も鎌倉も生活圏内で、光則寺の海棠が満開だ、宝戒寺の萩が見頃だといって鎌倉に足を運ぶ。夕食を済ませてから西湘バイパスを車とばして箱根の野天風呂に入りに行くのも可能だ。今、私はそんなところに住んでいる。

物故者

平成二年一月〜平成三年三月

客員	土屋 文明先生
高女16回	溝口 みよ
高女13回	松永 君代
高女24回	藤原 清子
高女9回	竹内 ヨシ
高女26回	関 藤子
高女19回	小林あい子
高女36回	矢崎 静子
高女3回	河野みほ子
高女31回	藤森むつみ
御冥福をお祈り申し上げます	

高女3回 藤森むつみ

母校探訪

持丸きみ子・宮坂 絹子 (高校3回)

高校卒業後四十年ぶりに母校を訪ねて、校門の前に立つ。クリーム色の校舎と前庭の樹木のたたずまいは、昔のままの風格で感慨ひとしお。

それに引きかえ、学校周辺には、家屋が建ち並び、その上道路拡張のために東側石垣部分が削られるかも知れない話も持ち上っているとのことである。

昭和八年竣工の校舎は今も本館と呼ばれ、ところどころ傷んではいるものがかつての重厚な風情を残している。懐かしさ、うれしかった。廊下の北側窓が、(当時は気がつかず) 意外に小さく、数も多くあり、白壁との調和が

なかなかのものである。新館には、体育館二つと格技室があり、校庭北側には弓道場、プール、シャワー室、テニスコート等もできていた。部室専用の建物も二棟もあり、現在の高校では当り前のことが私たちに、ただ驚きであった。

校門を入って左側に廻ると、なんとお風呂場もあり、校舎の中にも温泉が引かれて湯煙と共にお湯が出ていた。

男女共学となつて四年目の現在(昭和62年4月1日実施)男子生徒が三分の一を占めているが、ごく自然に溶け込み合っている感じを受けた。男女共学の高校が普通化されてきたせいか、その姿を見た私たちに違和感はありません。

この日はちょうど、卒業式の予行演習の日で、昼時には昇降口の廊下に二・三十種類のパンや飲み物が所狭しと並べられ、三々五々生徒が買っ

ていく姿が見られた。日差しが明るく陽溜りは暖かかったが、校舎の蔭の雪はつるつるに凍っていて転ばないように歩いた。かた雪に諏訪の感触を味わいながら――。

この日は、校長先生や同窓会々長副会長さんが温かく迎えてくださった。そして、諏訪なまりも混ざって現代高校生気質などお話をくださったり、校内をご案内くださったたりして、大変ありがたかった。

校長先生の話によると、本館は幸い雨漏りも無く、大切に使用は更に四・五十年は維持できるだろうとのこと、生徒たちも

この本館があることよって伝統校に入学した思いと誇りを深めているとのことであった。



る思いがした。また、今も尚、バトミントンを通して、先輩と後輩と強いつながりをもっているお話(後述)も伺うことができた。万作の黄色の糸状の花が静かに咲いている。二葉に拘わった人々が心を集めて愛し、守ってきた美しいこの前庭に立って、心から二葉高校の堅実な歩みを願う母校を後にした。

白羽会

(高校7回) 久保田繁子

昭和二十八年有志により始められたバドミントン部活動は、現在共学になり、男子部員も多く活気があり、又活躍を目ざましく喜ばしい。

高校十六回卒業部員の人達の発案で白羽会が誕生した。毎年正月と盆の二回当番学生より会の通知をいただく。

私は近年二回出席した。母校の新体育館で現役の若い先生や部員とシャトルを打ち合い汗を流した後、手作りの盛りたくさんの御馳走で話もはずみ、参加できた喜びを感じ、互に再会を約束して別れた。



図書紹介

- 高女32回 下玉利百合子著 枕草子幻想定子皇后(思文閣)
- 枕草子周辺論(笠間書院)
- 高女34回 金子 町子著 ひな子ちゃんはもう泣かない (明治図書)
- みどりのつぼみ(教育新聞社)
- 高女29回 土村ちづる著 歌集 撫子の歌(文芸出版社)
- 高女32回 上島多勢乃著 句集 星月夜(狩俳句会)
- 高女7回 小林 幸子共著 痛風の人の食事(保健同人社)
- 講座介護シリーズ(乳幼児・妊産婦の介護・家事サービス) (保健同人社)

編集後記

東京支部の存在を若い人もより多く知っていただくことに心をくだいて編集しました。二葉同窓生の、たしかで、すばらしい足跡を知り感動しました。快く寄稿にご協力いただいた方々に感謝いたします。

編集委員

- 清水 保子 太田 康子
- 横内 栄子 久保田繁子
- 宮崎 玲子 丸山みすゞ
- 持丸きみ子 藤森 道子
- 宮坂 絹子 増沢 悦子